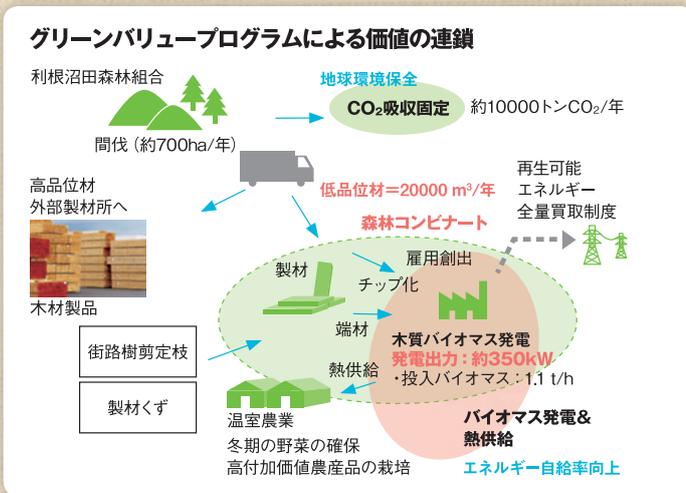




# 清水建設による森林再生 グリーンバリュープログラム

## 森林を健全に保つために CO<sub>2</sub> クレジットの創出を目指す



群馬県北部、利根川の上流にあり、森林に囲まれた川場村。



東京木工場はボランティア活動として、2012年から毎年8月に、宮城県本吉郡南三陸町などで木工教室を行っている。



**日** 本は国土全体の70パーセントを森林が占める「木の国」である。しかし現在、国内の森林の使用量はそのわずか1パーセント以下と、豊富な資源をほとんど使用していない。これは、昨今の木材需要の低迷と大きな輸入材の流入による林業の衰退が大きな原因と言われる。その影響から森林を健全な状態に保つために必要な間伐が進まず、多くの森林が荒れたまままで放置され、社会問題となっている。こうした日本の林業が抱える問題を解決すべく、清水建設は、東京農業大学とともに「グリーンバリュープログラム

ラム」を推進している。地域の森林資源を活用して地場産業やCO<sub>2</sub>クレジット（排出権）を創出し、そこから生まれる価値を地域に還元して、農村の持続的発展を実現するのが狙いだ。その具体的な取り組みとして2012（平成24）年2月には清水建設と東京農業大学、群馬県川場村が包括連携協定を締結し、グリーンバリュープログラムの事業モデルの検討に着手した。利根沼田森林組合が管理する民間林2万7200ヘクタールの間伐を基盤に事業モデルを構築する計画で、間伐材を木質バイオマス発電に

利用し、発電に伴う排熱を温室農業に活かす。また、これによるCO<sub>2</sub>吸収量年間1万トンのクレジット化を目指している。東京木工場もこの取り組みに参加しており、川場村の間伐材を加工し、社内外で行う木工教室やワークショップなどの教材に使用している。今後事業が本格化した際には、「kino style」の新製品や通常の木工事の材料に川場村の木材を採用するなど、木工製品という形でグリーンバリュープログラムに協力することも視野に入れている。